

事前復興のあり方共有

日本危機管理防災学会（市川宏雄会長）主催のオンラインシンポジウム「複合災害（水災害×地震災害）に対する事前復興の取組み」が2日に開かれた。自治体職員や防災に携わる関係者を中心に定員の300人を超える参加者が迫り



くる首都直下地震とともに、激甚化・頻発化する水災害との同時発生による複合災害を視野に入れた「事前復興」のあり方を共有した。オリエンタルコンサルタンツが事務局を担当した。

シンポジウムは、流域を複合災害に備える防災単位と捉え、地震防災にも広域で備える「流域防災」の可能性について多面的に話題提供し、複合災害に対する事前防災と、その目標像としての事前復興に関する知識を高めることを目的に開いた。

「水災にも震災にも強い防災まちづくりと事前復興の可能性―葛飾区―」と題した第1部では、葛飾区の情野正彦都市整備部部长と加藤孝明東大生産技術研究所教授

複合災害視野に流域防災の可能性探る

危機管理防災学会がオンラインシンポ

オリコンサルが事務局

・社会科学研究所特任教授、第2部の「『流域治水』から水災・震災に備える『流域防災』への展開」では、国土交通省関東地方整備局の早川潤荒川下流河川事務所所長と中林一樹東京都立大名誉教授がそれぞれ報告した。

第3部では4人の報告者がパネリストとなり、▽複合災害に備える「複眼的事前防災」の可能性▽複合災害に備える「流域防災」の課題と可能性▽複眼的都市防災と流域防災による「事前復興」の可能性―の3つの論点から議論を深めた。写真。

コーディネーターも務めた中林名誉教授は、複合災害時代に備える「事前防災」と「流域防災」「事前復興」の展望について、複眼的な「防災の目」を持つことで、複合災害にも負けない流域防災の取り組みが可能だと総括した。